

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
日本工学院八王子専門学校		昭和62年3月27日		中村 英詞		〒 192-0983 (住所) 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人片柳学園		昭和31年7月10日		千葉 茂		〒 144-8650 (住所) 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111		
分野	認定課程名		認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度	
工業	情報科学専門課程		AIシステム科		令和 2(2020)年度	-	令和 4(2022)年度	
学科の目的								
AIに関する専門的な知識と技術を持ち、ビジネス上の課題に対してAIを用いた解決案を考え・提案できる「AI活用人材」を育成する学科です。 変化の著しい社会情勢とICT環境に対応するため、実習環境には最新のクラウド環境を使用します。これら最新技術の構成要素や、データの取り扱いを学び、それを超体験型のアイデアノンスタイルで授業展開することにより、実践的な課題解決に必要な基礎力を養います。 また、オンライン等で実施される企業のインターンシップに参加することを推奨し、社会性を身につけるとともに、職業理解を深め、就職活動に備えます。 ITの知識・技術に加え、豊かな発想力と行動力、そしてこれらをビジネスに活かす力、それぞれを「知る」・「学ぶ」・「使ってみる」・「活用する」の4つのフェーズにわけ、2年間という限られた期間の中でバランスよくかつ効率よく学習を進められるようにカリキュラムを構成しました。 AIは今後の社会を飛躍的に発展させる大きな可能性をもった分野です。この分野において、AIの可能性と限界を正しく把握し、AIを用いたシステム開発をリードできるよう、厳選したカリキュラム構成をもって人材育成を行います。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		【学会発表・コンテスト・受賞】IEEE TOWERS Undergraduate Student Award 3年連続受賞、農業施設学会学生・若手の会 優秀賞、都知事杯オープンデータ・ハッカソン2024ファイナリスト、情報処理学会全国大会学生セッション発表、電子情報通信学会学生ポスターセッション発表 【資格・検定】生成AIパスポート、G検定、ITパスポート、中退率：4%						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,740 単位時間	1,125 単位時間	120 単位時間	2,520 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員		生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率			
160 人		91 人	25 人	27 %	4 %			
就職等の状況		■卒業者数(C) :		26 人				
		■就職希望者数(D) :		19 人				
		■就職者数(E) :		16 人				
		■地元就職者数(F) :		14 人				
		■就職率(E/D) :		84 %				
		■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		88 %				
		■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		62 %				
		■進学者数		7 人				
		■その他						
		(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)						
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価:		有				
		※有の場合、例えば以下について任意記載						
		評価団体: 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構		受審年月: 平成26年3月	評価結果を掲載したホームページURL			
当該学科のホームページURL		https://www.neec.ac.jp/department/it/aisystem/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		(A:単位時間による算定)						
		総授業時数		3,765 単位時間				
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		240 単位時間				
		うち企業等と連携した演習の授業時数		60 単位時間				
		うち必修授業時数		1,170 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		240 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		60 単位時間				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間				
		(B:単位数による算定)						
		総授業時数		単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位						
うち必修授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位						
教員の属性(専任教員について記入)		① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者(専修学校設置基準第41条第1項第1号)				1 人		
		② 学士の学位を有する者等(専修学校設置基準第41条第1項第2号)				0 人		
		③ 高等学校教諭等経験者(専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0 人		
		④ 修士の学位又は専門職学位(専修学校設置基準第41条第1項第4号)				2 人		
		⑤ その他(専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1 人		
		計				4 人		
		上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				4 人		

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ICTをはじめAI、ロボット技術に関わる企業等へのヒアリングを適時実施し、ものづくりの実務に関する知識・技術を調査してカリキュラムに反映させる。さらに、授業科目のシラバスをもとに科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、授業内容や評価方法を定める。常に授業内容や方法を検証することにより実践的かつ専門的な職業教育を目指す。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長のもとに設置する会議の1つである。校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。
本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人ソフトウェア協会 理事	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	①
足海 義雄	株式会社ハレックス 上席事業推進役	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
檜山 竹生	株式会社エイビット 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
中村 英詞	日本工学院八王子専門学校 校長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
荒井 哲子	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
大矢 政男	日本工学院八王子専門学校 カレッジ長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—
太田 晶	日本工学院八王子専門学校 科長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9～12月・1～3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年12月17日 15:00～17:00

第2回 令和7年03月06日 14:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1. プロジェクト管理とコミュニケーション能力の強化

(教員報告)企業連携プロジェクトにおいて、学生は「報連相」に不慣れであるため進捗の遅れを報告できず、プロジェクト終盤での仕様変更や、サポート体制拡充でなんとか乗り越えた状況を報告。

(委員ご意見と改善案)社会人でも新人は苦勞する部分であるため、それが学生時代に体験できることは意義がある。実践的なチーム開発プロジェクトをカリキュラムに導入し、進捗報告会や課題共有のための定期的なミーティングを義務付ける。また、学生自身がプロジェクトマネージャーを経験する役割を設け、責任感とコミュニケーション能力を養う機会を提供する。

2. 知財・法務教育の早期導入

(教員報告)企業との連携が増える中で、学生の知的財産権や守秘義務に関する知識が不足している点を指摘。コンプライアンス遵守の観点から早期教育の必要性を強調。

(委員ご意見と改善案)インターンシップや共同研究に参加する前の必修科目として、知的財産権(著作権、特許など)やNDA(守秘義務契約)に関する基礎知識を学ぶ講座を設ける。実際の事例を用いたケーススタディを組み込むことで、知識を実践的に活用できる能力を育む。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

発想法・ビジネス基礎・AIビジネス戦略(株式会社Zenical)においては、ビジネスの現場で活用されている各種手法を最新の生成AIツールも活用しながら学んでいる。授業は、同社代表が講師を勤め、実践的に実習(個人・グループ)を行い、合わせて学生の到達度を確認して評価した。学生は、その他の科目においてもこれらの科目で学んだ発想法等を用いて、課題の調査や整理に活用している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
アジャイル開発演習	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	スクラムなどのアジャイル開発手法を体系的に学びながら卒業制作で実践します。	株式会社Zenical
卒業制作	2. 【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	在学中に学習したことを生かしてグループごとにテーマを決め、AI活用をテーマに取り組みます。	株式会社Zenical

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施または、研修参加教員から情報共有することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	AGI時代の教育・学習イノベーションについて	連携企業等:	NPO法人 AI教育推進機構
期間:	令和6年9月	対象:	ITカレッジ教員
内容	①第1級教材の活用推進 ②機械学習はIT・DXのコア技術なのか ③教育設計図2.0 学生ポートフォリオ		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	生成AIハンズオン研修と教育・業務における活用検討	連携企業等:	NPO法人 AI教育推進機構
期間:	令和7年3月	対象:	ITカレッジ教員
内容	①対話型生成AI・マルチモーダル生成AIハンズオン ②学生をペルソナとしたAIチャットボットの構築 ③教育・業務において生成AIをどのように活用できるかディスカッション		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	シン教育時代における教育力の向上	連携企業等:	NPO法人 AI教育推進機構
期間:	令和7年8月	対象:	ITカレッジ教員
内容	① シン教育スタイルについて・サンドボックス構想・FDワークショップ ②教育設計図2026に向けた内容更新と第三者レビュー		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	ビジネス現場における生成AI活用の現在	連携企業等:	株式会社SHIFT AI
期間:	令和8年3月	対象:	ITカレッジ教員
内容	加速度的に進化する生成AIがビジネスの現場においてどのように活用されているか、また、研修等がどのように行われているかについて、最新事情をお伺いし、教員との意見交換を行う。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。

学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会会議における、本校の自己点検に対する評価委員からの主な意見と、それに対する本校の対応(活用)方法は以下のとおりです。

1. 留学生支援・国際交流の充実

評価委員からは、留学生の増加に伴い、日本語学習の困難や文化的背景への配慮が必要であるとの指摘があり、非漢字圏の学生への対応や語学支援の強化が求められています。また、英語圏以外の国々からの学生が増えていることを踏まえ、国際交流や交換留学制度の整備、Zoom等を活用した海外との交流機会の創出が望ましいとの意見がありました。

2. 教育内容・学習環境の向上

委員からは、学生の作品の質が年々向上していることが評価される一方で、医療分野におけるAI活用など、より実践的な教育内容の充実が求められています。また、番組制作やカメラ・照明などの職人的分野では、現場での学びが重要であり、専門学校としての強みを活かすべきとの指摘がありました。加えて、教職員のデジタル知識の向上が必要であるとの意見も示され、ICT活用の推進が課題とされています。

3. 地域連携・社会とのつながり

地域との連携については、ボランティアやアルバイトなど地域密着型の活動を経験している学生が多く、これを学校の特色として活かすべきとの指摘がありました。また、地域のスポーツ団体とのマッチング機会の創出や、予算面での課題を踏まえた地域活動の工夫が求められています。

4. 多様な学習者・進路支援への対応

委員からは、総合型入試を活用する学生の増加や、資格取得を通じた進学支援の必要性が指摘されました。さらに、社会人が専門学校で学び直す際には、資格取得が可能な環境整備や、異なる年齢層が共に学ぶことによる相互刺激の価値を重視すべきとの意見があり、多様な学習者に対応する柔軟な教育体制の構築が求められています。

5. 学生支援・メンタルヘルスの充実

学生が安心して学べる環境づくりに向けて、メンタルヘルス支援の充実が必要であるとの指摘がありました。言葉の掛け方によって学生の反応が変わることから、教職員の対応力向上も重要視されています。また、健康面での支援体制の強化や、個々の学生に応じた支援のあり方についても、今後の検討課題として挙げられています。

以上の内容を踏まえ、学校関係者評価委員会において討議された事項に基づき、次の5項目について検討を行い、今後の取組に活用してまいります。

- ・日本語教育の強化や海外との交流機会の創出、国際連携の推進など、留学生がより学びやすい環境づくりについて今後の整備を検討します。
- ・地域企業や団体との協働、地域イベントへの参加促進などを通じて、学生の実践力育成と学校の地域貢献を目指す取り組みを模索しています。
- ・教職員のICTスキル向上や授業のデジタル化、学生成果の外部発信など、教育の質を高めるための環境整備を段階的に実施していきます。
- ・社会人や非全日制学生への柔軟な学習支援、資格取得支援制度の整備など、多様な学びのニーズに応える体制づくりを今後の課題としています。
- ・メンタルヘルス支援や多言語対応、個別支援の充実など、学生が安心して学べる環境の構築に向けた取り組みを引き続き検討していきます。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社)	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	卒業生／企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
オ丸 大介	株式会社カオルデザイン 取締役 マーケティング戦略室 室長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
矢野 俊宏	株式会社田中建設 取締役 営業本部長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和7年4月1日～ 令和8年3月31日(1年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和7年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和6年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和7年9月30日

授業科目等の概要

(情報科学専門課程 AIシステム科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			キャリアデザイン1	就職するにあたっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。	1	30	2	○			○		○		
2	○			A I リテラシー概論	人工知能の発展の歴史や現在の活用事例を知り、AIシステムで実現可能なことを考えていきます。	1	30	2	○			○			○	
3		○		データ分析基礎選P	データ分析に必要な基礎的な数学や統計学を表計算ソフト等を用いて学びます。	1	30	1			○	○		○		
4	○			データベース基礎	Webシステムおよびデータ分析で用いるデータベースについて、基礎技術からSQLまで学びます。	1	60	2			○	○			○	
5	○			W e b 技術基礎	HTMLやCSSなどのWebシステムの開発に必要な基礎技術を学びます。	1	60	2			○	○			○	
6	○			クラウド技術基礎	クラウドサービスを利用したサーバーやインフラ環境の構築方法を学びます。	1	60	2			○	○			○	
7	○			A I プログラミング基礎	AIシステムを構築する上で必須となる各種プログラミングの基礎を学びます。	1	60	2			○	○		○		
8	○			発想法	発想力とアイデアをカタチにする方法を学び、デザイン思考を用いたアイデアソンを実施します。	1	15	1	○			○			○	
9	○			I o T もの作り実習	センサーやアクチュエーター等の実空間のモノゴトを扱うプログラミングを行います。	1	30	1			○	○		○	○	
10	○			情報セキュリティ	企業の業務システムやコンピュータシステムを安全に利用するために求められる情報セキュリティについて学習します。	1	15	1	○			○			○	
11			○	ビジネス基礎	システム戦略や経営戦略、マネジメント手法などの基礎について学びます。	1	30	2	○			○			○	
12		○		コンピュータ・テクノロジー 選P	コンピューターの基礎理論、システム開発技術などテクノロジー分野について学びます。	1	60	4	○			○			○	
13	○			アルゴリズムとデータ構造	プログラムでデータを処理する仕組みと多様なデータの特性を学びます。	1	30	2	○			○			○	
14			○	数学・統計学	AIプログラミングに必要な分野に特化して、高校数学の復習と分散や標準偏差などデータ分析に必要な統計学の基礎を学びます。	1	30	2	○			○			○	
15			○	資格対策講座 1	各種検定資格の対策を行います。	1	30	2	○			○		○	○	

16		○	特別講座 1	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	1	15	1	○			○			○	
17		○	校外研修 1	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	1	30	1			○		○	○		
18	○		キャリアデザイン 2	一般企業の筆記試験対策を行います。特に一般常識、SPI科目の対策を重点的に行います。また面接対策などをしっかり学びます。	1	30	2	○			○		○		
19	○		A I プログラミング実習	AIシステム構築に必要な機械学習（教師あり学習）をプログラミングにより学びます。	1	60	2			○	○		○	○	
20		○	機械学習基礎	機械学習の考え方やテクニックについて最新事例を交えて学びます。	1	30	2	○			○			○	
21	○		I o T 活用実習	ネットワーク経由でハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。また、教師データの作成のため、センサーデバイスの使用法を学び、データ収集を行います。	1	30	1			○	○		○		
22	○		W e b 開発実習	JavaScriptを使用した実践的なWebシステムを開発します。	1	60	2			○	○			○	
23	○		クラウドサービス実習	Google GCPやAmazon AWSなどのクラウドサービスを利用する方法を学習します。	1	60	2			○	○			○	
24		○	A I プロデュース	AIを活用したモノゴトづくりをプロデュースするために必要なスキルとして、クリティカルシンキング・ロジカルシンキング・ディベートを学びます。	1	30	2	○			○			○	
25	○		ビジネススキル	就職活動に備え、社会人として身につけるべき「身だしなみ」「言葉づかい」「挨拶」「話し方」などのマナーを習得します。	1	30	2	○			○		○	○	
26		○	プレゼンテーション 選P	プレゼンテーションソフト等を用いて、多くの人に効果的に伝える技術を身につけます。	1	30	1			○	○			○	
27		○	情報系資格対策講座 1	Python 3 エンジニア認定基礎試験、情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	1	60	4	○			○		○	○	
28		○	プロジェクト実習 1	他学科・地域・企業と連携したRPA活用等による課題解決や各種コンテストへの出場など、プロジェクト単位の活動を通してチームの役割を学びます。	1	60	2			○	○		○	○	
29		○	A I 系資格対策講座 1	G検定、Google GCP認定、Amazon AWS認定などに向けた対策を行います。	1	45	3	○			○			○	
30		○	資格対策講座 2	各種検定資格の対策を行います。	1	30	2	○			○		○	○	
31		○	特別講座 2	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	1	15	1	○			○		○	○	
32		○	校外研修 2	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	1	30	1			○		○	○		

33		○	海外研修 1	海外のAI・IoT先進地を視察し、現地の文化に触れることでグローバルな感性を身につけます。	1	30	1			○		○	○		
34		○	インターンシップ 1 選1	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1	120	4			○		○	○	○	
35		○	インターンシップ 2 選1	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	1	240	8			○		○	○	○	
36		○	スポーツ実習 1	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	1	30	1			○		○	○		
37		○	T o k y o P - T E C H 特別講座 選P	Tokyo P-TECH対象学生の特別講座	1	60	4	○				○	○	○	○
38		○	T o k y o P - T E C H プロジェクト実習 選P	Tokyo P-TECH対象学生のプロジェクト実習	1	60	2			○	○	○	○	○	
39	○		キャリアデザイン 3	求人票の見方、企業訪問の仕方、履歴書の添削や集団面接、個人面接の受け方など就職活動に必要なスキルをしっかりと学びます。	2	30	2	○				○		○	
40	○		A I ・ W e b 実習	AIを利用するWebシステムを実装しながら学びます。	2	60	2			○	○				○
41	○		A I ・ クラウド実習	AIのクラウドサービスを利用するシステムを実装しながら学びます。	2	60	2			○	○				○
42	○		A I ・ I o T 実習	AIを利用するIoTシステムを実装しながら学びます。	2	60	2			○	○			○	
43		○	アイデアソン・ハッカソン演習 1	地域や社会の課題を発見し解決するアイデアソンおよびハッカソンを行います。	2	30	2		○			○			○
44		○	マーケティング	市場調査における効果的な情報収集の手段や収集した情報の分析手法を身につけます。	2	30	2	○				○			○
45		○	情報系資格対策講座 2	Python 3 エンジニア認定基礎試験、情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2	90	6	○				○		○	○
46		○	プロジェクト実習 2	他学科・地域・企業と連携したRPA活用等による課題解決や各種コンテストへの出場など、プロジェクト単位の活動を通してチームの役割を学びます。	2	90	3			○	○			○	○
47		○	A I 系資格対策講座 2	G検定、Google GCP認定、Amazon AWS 認定などに向けた対策を行います。	2	45	3	○				○			○
48		○	資格対策講座 3	各種検定資格の対策を行います。	2	30	2	○				○		○	○
49		○	特別講座 3	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	2	15	1	○				○		○	○
50		○	校外研修 3	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2	30	1			○			○	○	
51		○	インターンシップ 3 選2	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	2	120	4			○			○	○	○

52		○	インターンシップ 4 選2	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	2	240	8			○		○	○	○	
53	○		キャリアデザイン 4	就職活動に向けた就職支援を行います。また内定先企業へのお礼状の書き方など学びます。	2	30	2	○			○		○		
54	○		卒業制作	在学中に学習したことを生かしてグループごとにテーマを決め、AI活用をテーマに取り組みます。	2	180	6			○	○		○	○	○
55	○		アジャイル開発演習	スクラムなどのアジャイル開発手法を体系的に学びながら卒業制作で実践します。	2	60	4		○		○			○	○
56		○	アイデアソン・ハッカソン演習 2	地域や社会の課題を発見し解決するアイデアソンおよびハッカソンを行います。	2	30	2		○		○			○	
57		○	A I ビジネス戦略	企業の実例をケーススタディとして学び、AIを利用したビジネスモデルを創造します。	2	30	2	○			○			○	
58	○		外国語	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	2	30	2	○			○			○	
59		○	情報系資格対策講座 3	Python 3 エンジニア認定基礎試験、情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2	90	6	○			○		○	○	
60		○	プロジェクト実習 3	他学科・地域・企業と連携したRPA活用等による課題解決や各種コンテストへの出場など、プロジェクト単位の活動を通してチームの役割を学びます。	2	90	3			○	○		○	○	
61		○	A I 系資格対策講座 3	G検定、Google GCP認定、Amazon AWS 認定などに向けた対策を行います。	2	45	3	○			○		○	○	
62		○	資格対策講座 4	各種検定資格の対策を行います。	2	30	2	○			○		○	○	
63		○	特別講座 4	講師を招いた特別講義やフォローアップ講座などを行います。	2	15	1	○			○		○	○	
64		○	校外研修 4	IT関連の展示会や講習会などに参加して最新の製品や情報に触れます。	2	30	1			○		○	○		
65		○	海外研修 2	海外のAI・IoT先進地を視察し、現地の文化に触れることでグローバルな感性を身につけます。	2	30	1			○		○	○		
66		○	インターンシップ 5 選3	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	2	120	4			○		○	○	○	
67		○	インターンシップ 6 選3	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	2	240	8			○		○	○	○	
68		○	スポーツ実習 2	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	2	30	1			○		○	○		

合計	68 科目	3765時間 単位（単位時間） 167単位
----	-------	--------------------------

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業要 卒業時に必修科目1170時間(50単位)および選択科目570時間(28単位)以上取得し、合計1740時間(78単位)以上取得すること。	1 学年の学期区分 2 期
履修方 1年次は必須660時間、選択科目270時間以上履修すること。 法： 2年次は必須510時間、選択科目300時間以上履修すること。	1 学期の授業期間 15 週

選択科目の履修方法

1 年次

【選P】

Tokyo P-TECH対象学生は、「Tokyo P-TECH特別講座」「Tokyo P-TECHプロジェクト実習」を履修し合格すること。

上記以外の学生は、「データ分析基礎」「コンピュータ・テクノロジー」「プレゼンテーション」を履修し合格すること。

【選1】

1 年次前期の出席および成績について学科の定める基準を満たした学生のみ履修することができる。

その他

以下の授業科目より、【選1】「インターンシップ1」を履修する学生は30時間以上、
【選1】を履修しない学生は180時間以上履修すること

- ・ビジネス基礎
- ・機械学習基礎
- ・プレゼンテーション
- ・AIプロデュース
- ・情報系資格対策講座1
- ・プロジェクト実習1

2 年次

【選2】

1 年次後期の出席および成績について学科の定める基準を満たした学生が履修することができる。

【選3】

2 年次前期の出席および成績について学科の定める基準を満たした学生が履修することができる。

その他

以下の授業科目より、【選2】「インターンシップ3」を履修する学生は30時間以上、
【選2】を履修しない学生は150時間以上履修すること

- ・アイデアソン・ハッカソン演習1
- ・マーケティング
- ・情報系資格対策講座2
- ・プロジェクト実習2

以下の授業科目より、【選3】「インターンシップ5」を履修する学生は30時間以上、
【選3】を履修しない学生は150時間以上履修すること

- ・アイデアソン・ハッカソン演習2
- ・AIビジネス戦略
- ・情報系資格対策講座3
- ・プロジェクト実習3

以下の科目は授業時間割外で実施

スポーツ実習1～2

校外研修1～4

インターンシップ1～6

資格対策講座1～4

特別講座1～4

海外研修1～2

数学・統計学

Tokyo P-TECHプロジェクト実習